

## 評価機関（特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク）

評価実施日 平成28年11月24日

### 1. 優れた取り組みと思われる点

内 容
働きやすい職場を目指して職員アンケートを行い、職員の意向を把握している。職務の中で、不満や精神的苦痛を感じていること、セクハラ・パワハラ、個人情報保護、自主行動基準の中で改善すべき項目があるか職員の意見を聞いている。さらに、配置転換や正職員への転換希望に加え、入居者の満足度向上 のための提案を募る等職員の働く意欲を高める取り組みを行っている。
自然災害対策として、事業継続計画(BCP)を整備するとともに、インフラに支障が生じた際に備え、自家発電により電源を確保し、井水加圧ポンプによる居室、トイレへの給水および温泉水を浴槽へ直接供給する体制を構築している。さらに、迅速に避難できるよう早期地震警報システムを導入して、地震発生前に館内放送で入所者に通報するしくみ設けている等、災害に対するハード 及びソフト両面から対策を講じている。
入居者が日々の生活の中で十分なアクティビティが行えるよう、ステージを設 えた大きなレストランや多目的ホール、ホビールームなどさまざまなコーナー を活用し、入居者の要望に沿った運動やレクリエーションを実施している。サークル活動に加え、各課が企画する行事やレクリエーションの実施、季節ごとに開催する旅行など、実施した後は評価を行い、次年度への参考事項を検討し、次の計画に反映されるよう取り組んでいる。
食後の残量確認を行うとともに、毎年実施する入居者アンケートの中に食事に関する項目を盛り込み、ニーズの把握に努めるとともに、レストラン内に意見ポストと意見用紙を設置し、要望の収集に取り組んでいる。さらに、年に1回食事に関する懇談会を開催し、より良い食事の提供に向けて話し合う他、意向があればフロントで聞き取るなど、入居者にとって、楽しみで美味しい食事が提供できるよう、意向把握に取り組んでいる。

### 2. 改善を要すると思われる点

スケール番号	内 容
	介護に関する業務マニュアルは策定されており、年1回および随時見直しが行われている。また、介護技術の研修は、昨年度はポジショニング、今年度は介護ロボットの活用をテーマとして実施している。今後は、定期的に入浴や排泄、食事など各種介護の基本研修を実施する他、職種・経験年数・職階を踏まえた研修を計画的に行うことが望まれる。さらに、活用しやすい介護マニュアルの見直しにも期待したい。
	ホームは、4年前にサービス評価を実施し、ホームページに公表している。今回の評価を受審するにあたり、中長期計画の第三者評価の項目には「実施していくものである」と明記し、常に改善を図りながら、より良い事業所の運営を目指している。今後は、3年に1回以上の定期的な受審を計画し、実施するとともに、これまでと同様、評価結果を公表していくことを検討されたい。
	入居者の家族等に対しては、年4回開催される運営懇談会の報告書と行事開催の案内の他、要望に応じて食事の献立表や月々の予定表を送付し、また、必要 があれば、電話などで連絡を入れている。入居者の状況はさまざまであるため、必要なことは本人に伝え、書類を手渡すなど入居者の意向を重視した対応に努めている。今後は、事業所だより等を作成し送付するなど、さらに多くの家族等との交流の促進が望まれる。